

ひろしま公園活性化プラン

～将来にわたって愛され続ける公園であるために～

概要版

1 策定の趣旨

県立みよし公園、県立びんご運動公園、県立せら県民公園（以下、「県立3公園」という。）について、施設の老朽化や利用者のニーズの変化を踏まえた既存ストックの機能向上を図り、将来にわたって県民から愛され続ける公園を実現することを目的に、公園活性化協議会での議論を踏まえ、公園経営の観点から考慮した、今後の戦略的な管理運営の方針として、ひろしま公園活性化プラン（以下、「プラン」という。）を取りまとめました。

2 位置付け

本プランは、県の総合計画である「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」が目指す広島県の将来像を実現するために必要な社会資本マネジメントの基本方針である「社会資本未来プラン」の公園分野の計画であり、上位計画には、県の都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を定めた「都市計画区域マスタープラン」があります。

3 計画期間

令和4年度から令和12年度

4 県立3公園の「満足度」と「ニーズ」

■ 県立みよし公園（愛称：電光石火みよしパーク）

○利用者数と満足度 利用者数 約70万人、満足度 86%

○満足度の傾向

満足度が高い項目：施設・設備の充実状況、自然の豊かさ、スタッフの対応

満足度が低い項目：飲食・休憩施設、バリアフリー化の状況、地域ならではの取組、公共交通でのアクセス

○利用者のニーズ

公園でしたいこと：プロスポーツ観戦、イベントや催し物の開催・参加、食事や休憩

公園に求める施設：アスレチック、バーベキュー場、キャンプ場

○公園の特性（強み） 備北圏域のスポーツ施設の中核、高速道路からの良好なアクセス性、近隣利用者が多い

○公園の特性（弱み） 集客力が高い類似施設との競合、未活用エリアの点在



■ 県立びんご運動公園（愛称：こざかなくんスポーツパークびんご）

○利用者数と満足度 利用者数 約70万人、満足度 89%

○満足度の傾向

満足度が高い項目：施設・設備の充実状況、自然の豊かさ、スタッフの対応

満足度が低い項目：飲食・休憩施設、バリアフリー化の状況、公共交通でのアクセス、地域ならではの取組、周辺施設との周遊

○利用者のニーズ

公園でしたいこと：プロスポーツ観戦、食事や休憩、イベントや催し物の開催・参加

公園に求める施設：カフェ・レストラン、ボルダリング、アスレチック、バーベキュー場

○公園の特性（強み） 県内スポーツ施設の中核、高い施設水準、高速道路からの良好なアクセス性、近隣利用者が多い

○公園の特性（弱み） 高い維持コスト、未活用エリアの点在



■ 県立せら県民公園（愛称：せら夢公園）

○利用者数と満足度 利用者数 約33万人、満足度 78%

○満足度の傾向

満足度が高い項目：自然の豊かさ、利用料金

満足度が低い項目：飲食・休憩施設、バリアフリー化の状況、公園内の情報・案内表示板、公共交通でのアクセス、利用や予約手続き、周辺施設との周遊

○利用者のニーズ

公園でしたいこと：食事や休憩、自然環境保全活動・環境学習、イベントや催し物の開催・参加

公園に求める施設：キャンプ場、カフェ・レストラン、バーベキュー場

○公園の特性（強み） 自然観察園、周辺に観光施設が点在、せらワイナリーが隣接、広域的な利用傾向

○公園の特性（弱み） 高速道路からの距離、広大な未活用エリアの存在



※利用者数は、平成25年度以降における、公園施設の大規模修繕や高速道路の開通、新型コロナウイルス感染症などの外的な影響が少ない年度の平均値を採用しています。

※満足度と利用者のニーズは、アンケート調査（R3.8.20～R3.9.10）の結果による。

5 社会情勢の変化

社会情勢からみた公園への要請事項のうち、今後の公園管理運営において重視すべき変化として、次の6項目に着目しました。

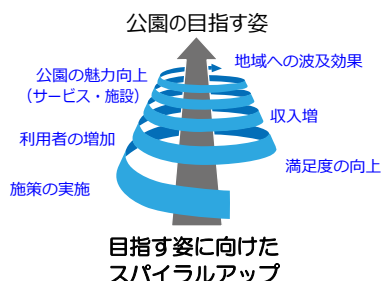
- ①人口減少・高齢化 ②防災・減災 ③ライフスタイルに対する新しい価値観
④持続可能な開発目標（SDGs） ⑤カーボンニュートラル ⑥DX

6 目指す姿と課題

県立3公園の特性や社会情勢の変化を踏まえた上で、30年後の「あるべき姿」を想定して10年後の「目指す姿」を設定しました。

(1) あるべき姿（30年後）

子供からお年寄りまでの誰もが何度でも気兼ねなく訪れたいくなる多様性があり、引続き自然と都市の近接性を実感できる場として県民から愛されるとともに、県民の健康・スポーツなどの夢や希望への挑戦を後押しする公園の実現



公園活性化による効果のイメージ

公園の活性化をきっかけとして「施策の実施(公園の魅力向上)による公園利用者の満足度の向上や利用者の増加を目指し、その結果、公園の収入が増加し、その増加した収益によって、更に公園の魅力向上につなげる」好循環を生み出し、魅力向上し続ける公園を目指すとともに、公園の活性化によって、公園の交流拠点としての役割が強化されることで、地域社会への波及効果も期待できます。

(2) 目指す姿（10年後）

定性的な目標として、3公園共通となる3項目と公園毎の特性に応じた2項目を設定し、定量的な目標として利用者数と満足度を設定しました。

公園毎	共通	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人々から高い満足度を得て、誰でも何度でも訪れたいくなり、滞在時間の長い施設となっている。 気軽に予約・利用ができるなど、利用者へのサービスが行き届いており、満足度が高い施設となっている。 民間事業者や地域住民等が公園運営にも参画しており、公園全体の魅力が向上し続けている。
	みよし公園	<ul style="list-style-type: none"> 備北圏域の誰もが何らかの関わりを持ち、地域に開かれた公園として積極的に利用されている。また、高速道路でのアクセス性の良さを生かし、文化活動・企業活動などが盛んに行われている。 スポーツ及びレクリエーション施設では施設水準が適切に維持され、備北圏域を代表するスポーツ施設として様々な大会等が行われており、屋外ではゆったりと楽しめる、憩える空間が広がっている。
	びんご運動公園	<ul style="list-style-type: none"> 尾道市を中心とする備後圏域の誰もが何らかの関わりを持ち、地域に開かれた公園として積極的に利用されている。 スポーツ施設では施設水準が適切に維持され、県内スポーツにおける中核施設として様々な大会開催・イベント等が行われている。また、施設更新時には、利用者ニーズに柔軟に対応するなど、レクリエーション施設も充実し、長時間楽しめる、憩える空間となっている。
	せら県民公園	<ul style="list-style-type: none"> 原風景が広がる自然観察園では、自然観察や環境学習などが盛んに行われ、地域に欠かせない施設となっている。 ゆったりと憩える空間が形成されており、周辺観光施設を周遊するファミリー層が、立ち寄ってみたいくなる公園となっている。

目標指標	現状		目標（令和12年度）	
	利用者数	173万人	182万人	
	満足度	86%	約90%	

(3) 目指す姿とのギャップ

満足度やリピート率の向上、収入増などの視点から、「目指す姿」と「現状から手立てを講じない場合」とのギャップについて整理しました。

■多様なニーズや多様性に係るギャップ

飲食・遊戯施設へのニーズが満たされず、バリアフリーなど多様性への対応が不十分となり、全体的な満足度の低下が懸念される。

■各公園の特性に係るギャップ

みよし公園

周辺施設との差別化が図れず、利用者に認知されないことが予想される。

びんご運動公園

「地域ならではの取組」に関わる人が増えず、地域活動の場としての利用増加が見込めないことが予想される。

せら県民公園

「自然保護活動・環境学習」の広がりが見込めず、他の観光施設への利用者の流出が予想される。

■コストに係るギャップ

老朽化対策費用の不足による施設の利用制限やサービス低下が懸念される。また、利用料金による収入が増加しないため、満足度の低下が懸念される。

(4) 目指す姿の実現に向けた課題

「目指す姿とのギャップ」を踏まえるとともに、各公園の現状や利用者ニーズなどから、目指す姿の実現にあたって考慮すべき4つの課題を抽出しました。

■多様化するニーズが満たされていない

未活用エリアを活性化し、先駆けて多様化するニーズを満たすため、民間のノウハウや資金を活用するなど、公園全体の魅力を向上させ続ける必要がある。

■誰もが安心して利用できる多様性への対応が不十分

利用者ニーズに対応した、多様性のある施設へ更新し高い満足度を維持し続ける必要がある。

■公園毎の特性が十分に生かされていない

みよし公園

周辺施設との差別化を図る必要がある。

びんご運動公園

地域に開かれた公園づくりを強化する必要がある。

せら県民公園

自然活動等の拡大や周辺施設との連携強化に取組む必要がある。

■施設の老朽化対策費用の増加などによる利用制限やサービス低下の懸念

限られた予算の中で、利用者の満足度を維持向上させながら、管理コストの縮減や収入増加へ取組む必要がある。

7 基本方針

「目指す姿の実現に向けた課題」へ対応する4項目にベースとなる「安全・安心を支える取組」を加えた5項目を基本方針としました。

(基本方針1)

多様化するニーズを踏まえた魅力向上

(基本方針2)

誰もが安心して利用できる多様性への取組

(基本方針3)

地域から愛される公園特性に応じた魅力づくり

(基本方針4)

経営的視点からのコスト適正化・収入増への取組

(基本方針5)

安全・安心を支える取組

8 取組の方向、具体的な取組

施策の検討にあたっては、多様な世代を対象としつつ、効率的な効果発現のため、主なターゲットとなる、ファミリー層やシニア層のニーズを踏まえて整理し、取組毎の費用対効果や公園毎の役割、効果発現までに要する時間などを考慮して、7つの重点的な取組を選定しました。

また、急速に変化する社会情勢を踏まえ、取組毎のPDCAを回しつつ、計画期間に示す短期・中期の各区分においてもプラン自体を見直し、効果検証・改善を行います。

（基本方針1）多様化するニーズを踏まえた魅力向上

取組の方向	具体的な取組（抜粋）
民間のノウハウを活用した魅力向上	Park-PFIなど民間活力の導入【重点】 など
利用者のニーズを踏まえたサービス提供	キッチンカー等の誘導、キャッシュレス化 など
オープンスペースの魅力向上	ひろしまはなのわビジョン※1を踏まえた花や緑に親しむイベント等の実施 など
利用者のニーズを踏まえた施設更新・整備	魅力向上に資する施設更新・整備【重点】
多様な使い方を誘発	HPやSNSを活用した公園の使い方の幅を広げる情報発信【重点】 など
Dxの推進	キャッシュレス化（再掲） など
継続的なニーズ把握	アンケート調査やデータを活用した利用者の動向分析等の実施

※1 第37回全国都市緑化ひろしまフェアの開催を契機として設立した「ひろしまはなのわ魅力推進協議会」において策定した、花や緑の持つ多面的な機能を活かした地域づくり推進のためのビジョン。

（基本方針2）誰もが安心して利用できる多様性への取組

取組の方向	具体的な取組（抜粋）
気軽に利用できる環境づくり	バリアフリー化・インクルーシブ※2化【重点】 など
居心地の良い環境づくり	トイレの洋式化・タッチレス化 など

※2 「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念を表す。公園を訪れる誰もが一緒に楽しく遊べる公園のことをインクルーシブ公園といいます。

（基本方針3）地域から愛される公園特性に応じた魅力づくり

取組の方向	具体的な取組（抜粋）
共通	多様な主体の参画を誘発 民間のCSR活動・NPO活動を推進【重点】 など
	地域活動を誘発する環境づくり 花壇づくりなど地域住民等による公園の管理運営への参画を促すポーター制度の導入など【重点】 など
みよし公園	広島圏域からも集客できる魅力づくり 広域利用者の優遇措置の検討
	文化活動・企業研修を誘発 企業研修の場としてのPR強化 など
	スポーツを核とした交流 プロスポーツ選手等による指導の強化、スポーツ合宿の誘致 など
びんご	文化活動・企業研修を誘発 企業研修の場としてのPR強化 など
運動公園	スポーツを核とした交流 プロスポーツ選手等による指導の強化、スポーツ合宿の誘致 など
せら 県民公園	自然活動や環境学習を誘発する環境づくり 環境学習を通じてコミュニティ活動等への参画を促す など
	周辺施設からの利用誘導 スタンプラリー等の連携事業の実施 など

（基本方針4）経営的視点からのコスト適正化・収入増への取組

取組の方向	具体的な取組（抜粋）
新たな管理運営手法の導入	Park-PFIなど民間活力の導入（再掲） など
新たな資金調達手法の導入	ネーミングライツの導入 など
利用実態に即した施設更新	詳細な利用実態の把握・分析と施設更新への反映
利用料金の適正化	公共コストの適正化【重点】、ダイナミックプライシング※3の導入検討
多様な主体の参画を誘発（再掲）	民間のCSR活動・NPO活動を推進（再掲） など
コスト縮減	LED化・ローメンテナンス植栽の採用 など

※3 消費者の需要と供給を考慮して、商品やサービスの価格を変動させる手法。（閑散期や利用頻度の低い時間帯の料金を変動させるなど）

（基本方針5）安全・安心を支える取組

取組の方向	具体的な取組（抜粋）
防災拠点としての機能確保や活用強化	拠点施設の耐震化など防災対応機能の確保 など
公園施設の適切な維持管理	計画的な大規模改修の実施、Dxを活用した獣害対策
グリーンインフラの視点による防災機能の強化	園路など雨水浸透化
カーボンニュートラルへの対応	太陽光などクリーンエネルギーの活用、森林の適切な管理